

会派研究研修・視察調査報告書

令和元年10月30日

常滑市議会議長 様

会 派 名 公明党議員団
会派の代表者 加藤 代史子



会派等研究研修・視察調査について次のとおり報告します。

記

- 1 視察期日 令和元年10月24日(木)
- 2 視察先 TRCセミナー
及 び 「政策実現への財政議論～年間サイクルで押さえる予算・
研修内容 財政議論のツボ～」
- 3 参加者 加藤代史子
- 4 行 程 常滑→名鉄名古屋→近鉄名古屋→鶴橋→新大阪→江坂
→新大阪(新幹線)→名古屋→常滑
- 5 経費について
交通費 名鉄 680円×2=1,360円
近鉄 4,340円
JR 220円
地下鉄 180円×2=360円
新幹線 6,680円
参加費 5,000円
総合計 17,960円



公明党議員団の視察報告

公明党議員団 加藤 代史子

日 時：令和1年10月24日（木）13時から16時

会 場：図書館流通センター関西支社 研修室

テーマ：「政策実現への財政議論～年間サイクルでおさえる予算・財政議論のツボ～」

講 師：稲沢克祐 関西学院大学 専門職大学院 経営戦略研究科 教授

【目的】

決算審査が終わり、来年に向けてこれから予算編成の時期に、議会としてどのような対応が必要なのか、また現在どの自治体でも財政状況が厳しく、これからの人口減少と超高齢社会の中、年々ふえていく社会保障費に対し、限られた財源をどのように有効活用し、市民に満足してもらえるか、私なりに学ぶことが必要だと感じたため、政策実現への財政議論という内容にひかれ、今回この講座を受講した。

【研修内容及び所管、市への反映】

今回のセミナーは、予算、財政関連の年間スケジュールを理解し、政策を的確に予算に反映させていくための議論の在り方について、次の3項目の視点からの解説であった。

- ①決算審査と予算審議との連動
- ②財政情報の読み解き方
- ③行政評価情報の読み解き方

1、環境の変化と地方分権時代

①自治体におけるストックサイクル（ヒト、モノ、カネ）の変化

- ・人口減少時代は税収の減収である。
- ・公共施設の余剰問題、不足問題。
- ・千葉市では複合施設として、中学校と高齢者施設の合築をし、そこでは考えていなかった、お互いの相乗効果が生まれた。

常滑市においてもこれはとても参考になると思った。今後子供が減り、学校の教室が余ってくると考えらる。そこを地域の高齢者に開放し、学校の中を多くの大人が行き来する。これは子供にとっても、高齢者にとってもいい影響が

あると思った。南部地区、北部地区の子供たちが今後ますます減る中、空き教室の利用については重要な課題である。地域に開放し、維持管理のお手伝いもお願いできれば双方にとってとてもいいと思った。

2、予算・決算と議会

①予算の意義

- ・議会の減額修正権、増額修正権

私が議員になってから、議会として行使したことはあまりないと思うが、今後の議会の中では必要な場合があるかも知れない。講師は予算の考え方として単年度だけでなく、中長期にはどうかという視点が大切だと言われたが、今まで中長期への視点が抜けていたので、今後の予算編成に取り入れていく必要があると思った。

②予算と決算の連続

- ・小松市議会では事務事業評価を利用している。

事務事業評価の重要性の話があったが、成果表には載っていないので、個別事業に対する事務事業評価のチェックが必要である。

3、決算審査における財政状況の把握・政策の評価

②財産の状況

- ・施設等
目的外使用しているものがある場合、その使用状況が妥当なものと言えるか。
- ・物品
不用不急な物品を購入していないか。特に予算消化の目的で変質の恐れのある物品を必要以上に購入しているような例はないか。

常滑市でも以前はそのようなことがあったと思うが、今は残せる予算は残し、来年度の予算に反映させることが重要という考え方に変わっている。決算から予算への連動の重要性を認識し、実施していきたい。

- ・出資団体の検証
自治体関与の在り方の検証

- ・指定管理者

定着してきたが、モニタリングして建設的な改善が求められる。しかしだんだんと行政側に事業のノウハウがなくなり、指導できなくなる。成果の検証が重要。

常滑市においても指定管理がふえてきたが、職員に適切な管理を検証できるノウハウがなくなってしまうと成果の検証はできなくなる。しかし、適正な職員数を考えれば、全て職員で行うのには無理がある。この点は今後の検討課題となる。

4、歳出予算審議のポイント

- ・行政評価シートを決算審査に使う。
- ・秩父市で実施している。(人口6万人の都市であるが、職員によるエクセルシートで実施)
- ・篠山市では1億円を超える事業は外部評価委員会にかける。

5、新規事業の予算審議の視点

- ・自治体の議会基本条例に議会審議における論点情報の形成を明記

これは、まだ本市議会の議会基本条例には明記していないので、追記をする必要があると思った。議会基本条例もつくるのが目的ではなく、適宜追記して、議員がかわっても全員で条例を検証していくことが重要だと感じた。

6、行政評価と決算審査・予算審議

- ・行政評価の分析視点から予算事務事業を分析する。(名古屋市の事例)

今回の講義は大変わかりやすく、他市の事例を通しての話はとても良かった。決算が終わったばかりなので、次の予算に向け、しっかり勉強していきたい。決算審査の審議の仕方は市町でそれぞれだが、本市議会のように全員で審議できることは改めてとても良いと思った。それぞれの視点がとても重要である。今後の予算・決算にしっかり反映させていきたい。

領収書

常滑市議会議員
加藤 代史子 様

金 5,000 円 (消費税込み)

但し、セミナー参加費として
(政策実現への財政議論～年間サイクルで押さえる予算・財政議論のツボ
令和元年 10 月 24 日開催)

令和元年 10 月 24 日

株式会社図書館総合研究所
東京都文京区大塚寺丁目 1 番 1 号
代表取締役社長 佐藤 達生